

## 「生理の貧困」を知っていますか？

「生理は女性特有のものだから…」 「生理は我慢するもの…」 と思っていませんか？  
生理は女性だけが考える問題ではありません。  
社会全体で生理への理解を深めましょう！

生理用品が  
買えない…。



生理のことを話すのは、  
恥ずかしい…。



生理くらいで病院に  
行くなんて…。



### CONTENTS

- ・ 生理の貧困について
- ・ 女性のための相談窓口の紹介

## 生理の貧困とは？

生理の貧困とは、「生理用品が買えない」「鎮痛剤が買えない」という経済的な問題だけを意味しているわけではありません。

その背景には、家庭の事情や生理に関する知識や理解が不足しているという社会的な問題も含まれています。

## 生理の貧困になる理由とは？

### 経済的困窮

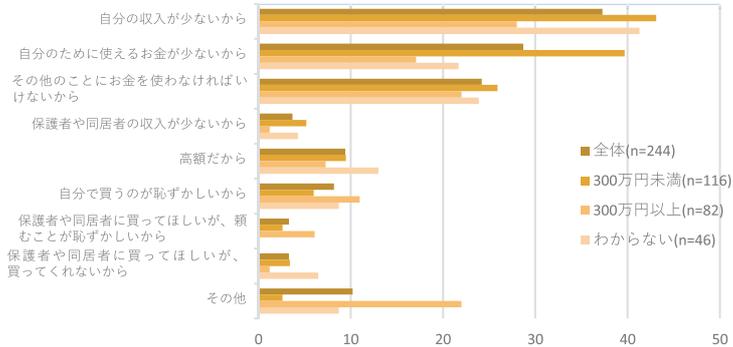
生理用品が買えない…。



「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」（令和4年2月厚生労働省）によると、「新型コロナウイルス感染症発生後（令和2年2月頃以降）から現在までの間に生理用品の購入・入手に苦労したこと」について、「よくある」「ときどきある」と回答した割合は8.2%でした。

その理由としては、「自分の収入が少ないから」や「自分のために使えるお金が少ないから」等の経済的な理由が多く挙げられました。

図1：世帯年収別 生理用品の購入・入手に苦労した理由 ※複数回答



厚生労働省「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」より

### 家庭の事情

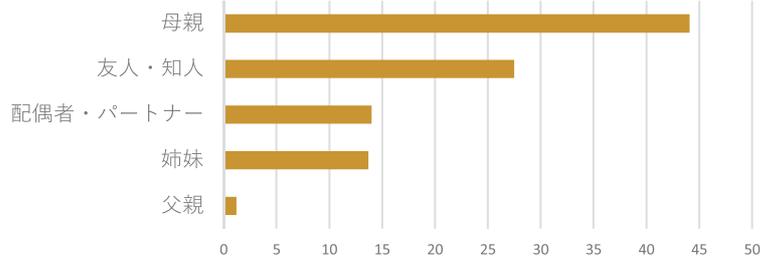
生理のことを話すのは、恥ずかしい…。



ネグレクトや虐待により、生理用品を買ってもらえないことがあります。

また、父子家庭で生理用品が用意されず、父親に生理用品が欲しいと言いつづらうという環境もあります。

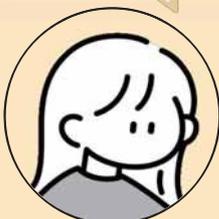
図2：生理全般について気軽に話せる相手 ※複数回答（一部抜粋）



厚生労働省「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」より

### 知識の不足

生理くらいで病院に行くなんて…。



本人や周囲の人も生理に関する正しい知識をもっていなかったり、生理について話しづらかったりする現状があります。

「男女の健康意識に関する調査」（令和5年度内閣府）によると、「働く上で健康課題に関して困ったこと」として、「月経（生理）の不調など女性ならではの悩みが言い出しにくい」と回答した人は、20歳～39歳で2割にのぼりました。

また、インターネットやSNSの普及により「生理は毎月同じ日に来る」や「生理痛は我慢するべき」等の生理に関する誤った情報や危険な情報に触れる機会が増えています。

## 生理の貧困からみえる課題とは？

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、「生理の貧困」が指摘されるようになりましたが、生理の貧困の背景にある課題は決してそのときに始まったものではありません。そこから社会的な課題が見えてきます。

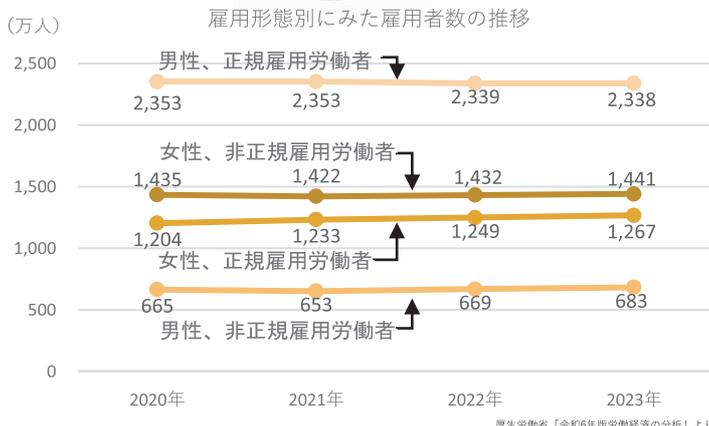
### 「経済的困窮」から考える



左ページ図1のように、生理用品・鎮痛剤を買えない理由として「自分の収入が少ない」や「自分のために使えるお金が少ない」などが挙げられる背景には、女性の非正規雇用の課題もあります。

2023年の男女別の雇用者総数に占める「非正規の職員・従業員」の割合は男性は22.6%ですが、女性は53.2%であり、働く女性の半数以上が非正規雇用という実態です。

非正規雇用は正規雇用と比べ、雇用が不安定、賃金が低い、キャリアアップの機会が少ないという課題があります。



### 「家庭の事情」「知識の不足」から考える



生理についての知識や理解が不足している背景には、性教育の不足や生理をタブー視する文化があります。

1998年に改訂された学習指導要領にある「はじめ規定」が性教育の制約となり、学校で性について具体的な内容を教えることを避けるようになったと考えられています。

そのため、現在でも家庭や学校で性や生理について話しづらい環境が続き、正しい知識を得る機会が減ってしまうという悪循環が生まれています。

## 生理の貧困による影響

### 1. 心身の不調

生理用品などを手に入れられないことで、不衛生な方法で対応せざるを得なくなってしまい、健康被害を引き起こすことがあります。



生理用品を買えず、トイレットペーパーなどで代用すると、かゆみ・かぶれなどになることがあります。

### 2. 機会の損失

生理の仕組みや生理痛、生理中の不調などについて、正しい知識がないと、不安や恐怖を感じやすくなります。また、生理を「恥ずかしい」「隠すべきもの」と捉え、周りの人に相談できずに悩むこともあります。その結果、生理痛がひどくても適切な対処ができず、学校や職場でも相談できないことで、学校や仕事を休むことになり、学業や収入に支障をきたすことがあります。



経血の漏れが心配で、仕事に集中できなかったり、遊びの予定を諦めたいことがあります。

# みんなで考える「生理の貧困」

「生理の貧困」の背景にある女性の非正規雇用の問題や家庭の事情、性教育不足の問題、生理をタブー視する文化などは、これまでも指摘されてきた社会課題です。

「生理の貧困」を単に「経済的な理由で生理用品が買えない」だけで片付けるのではなく、その根底にある課題を解決するために、社会全体で考えていくことが大切です。

近年では、商業施設やオフィスなどのトイレの個室に生理用品を常備し無料提供するサービスがあります。本市でも、以下の公共施設等で生理用品の配布を行っています。

- ・市役所(増進型地域福祉課)
- ・金剛連絡所(2階自立相談支援窓口)
- ・多文化共生・人権プラザ(TONPAL)
- ・きらめき創造館Topic
- ・総合福祉会館
- ・コミュニティセンター かがいの郷
- ・ケアセンター けあぼる

## 富田林市 女性のための相談窓口



### 女性のための悩み相談

女性カウンセラーによる相談(面接・電話)

★要予約：多文化共生・人権プラザ内

男女共同参画センターウィズ ☎0721-23-0030

日時	9:30～	10:30～	11:30～	13:30～	14:30～
第1火曜日	○	○	○	○	○
第2木曜日	-	○	○	○	○
第3土曜日	○	○	-	-	-

### 女性のための電話相談

女性カウンセラーによる電話相談

日時：毎月第4金曜日 13:30～16:00 ☎0721-23-0567

### 女性のための法律相談

女性弁護士による相談

※詳しくは、男女共同参画センターウィズへお問い合わせください。

編集・発行

〒584-8511 富田林市常盤町1-1  
富田林市 人権・市民協働課 人権・男女共同参画係  
TEL 0721-25-1000

発行日

2025 (R7) 年12月

ご意見・ご感想をお寄せください!

E-mail  
jinken@city.tondabayashi.lg.jp

